

第 19 回宇和島市子ども・子育て会議議事録

開催日時

令和元年 7 月 19 日(金) 13:30～15:00

開催場所

宇和島市役所地下会議室

出席者

(委員)

高瀬委員・今西委員・宮本委員・佐々木委員・松島委員・鹿島委員・渡部委員
廣瀬委員・毛利委員・吉川委員・山村委員・武田委員・中平委員 (※欠席者なし)

(行政関係)

教育委員会

上田部長

教育総務課 西川課長・学校教育課 西田課長・生涯学習課 富田課長

保健福祉部

保険健康課 毛利課長

(事務局)

保健福祉部

岡田部長

福祉課 伊手課長・富永課長補佐・大江児童福祉係長・酒井子育て支援係長

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 五百木氏

議 事

子ども・子育て支援事業計画について

令和 2 年度に事業形態を変更予定の施設について

その他

会議経過

1 開 会

定足数の確認

第 18 回会議録の確認

保健福祉部長挨拶

会長・副会長の選任(会長は渡部委員、副会長は廣瀬委員に決定)

2 議 事

(1)宇和島市子ども・子育て支援事業計画について

①第 1 期計画の目標事業量と実績比較 (資料 2)

※第 1 期計画の実績報告を行い、意見聴取を行った。

[質疑応答・意見]

委員：第1期計画の見込み量の算出について計算方法の概要を知りたい。

事務局：国から示された計算方法により算出を行った。具体的には、計画後5ヵ年の人口がどう推移するか、アンケートの回答者がどのような意向を持つ家庭か類型区別を行い、その家庭類型が持つニーズを分析し算出する方法となっている。人口推移とニーズ量の割合とを勘案した計算方式となっていた。利用できるなら利用したいかといったような設問が多くあったため、ニーズ量が高く算出される結果となっており、全国的に他の自治体においても同様であったといえる。

委員：計画期間の途中で量の見直しはしていないのか。

事務局：していない。

委員：今の計算式に関連して、人口動態についての予測はずれていないのか。

事務局：予測より実績の方が減っている。

委員：利用量が予測量より減っていることについてはどう思うか。

事務局：アンケートの結果だけに基づくとも実績と乖離した高い数値が出ていると分析している。

委員：国の計算式に基づいた算出では意味がないと思う。

事務局：第1期の結果を受けて、第2期計画においては、見込み量の算出について、過年度の実績に基づき、地域の実情に応じた内容で反映させていくつもりである。その第2期の見込み量を次回以降にお示し、委員の皆さまの意見をお伺いしたいと考えており、委託業者(ジャパン総研)とも打合せ済みである。

②第2期計画策定のためのニーズ調査結果報告(資料3)

※ニーズ調査結果について報告を行い、意見の聴取を行った。

[質疑応答・意見]

委員：調査票の回収率について、ジャパン総研はどう思うか。他市の状況等も踏まえて伺いたい。

事務局：アンケート調査は他社(株式会社ぎょうせい)が実施したものであるため、そのことに関する意見は、正直なところ躊躇するが、今回、郵送による回収を行っているため、結果のとおり、30パーセントを超える程度になるだろうとは分析できる。これが事業所や学校等を経由した場合は少し高くなる場合があるとはいえる。

委員：事務局はこの回収率をどのように考えているか。

事務局：今回は郵送によるもので、園を通じて回収をすることを基本としていなかったが、調査の実施に関する周知については各園への掲示や市ホームページに掲載するなど努力は行った。

- 委員：園で周知も行っていただければ、直接回収も手段として回収率を上げるような努力をしても良かったのではないかと。
- 委員：前回は同じく3,000部配布し2,019部回収しているところ、郵送による回収を手段としたことで回収率が下がったことを重く受け止めなくてはならないのではないかと。今回も、前回の回収率の高さを真似て、直接回収を行った方が良かったのではないかと。
- 委員：調査結果報告書の各設問の結果に関するコメントについては、誰が見ても分かるような内容を文章化するのみならず、もう少し踏み込んだ内容のコメントや意見も示して欲しいかと。
- 事務局：結果報告は事実を述べるにとどまった内容になっているが、この結果や自由意見でいただいた内容を次の計画に反映させていきたいと考えている。
- 委員：今回、ニーズ調査業務の委託業者と計画策定業務の委託業者が異なっており、ニーズ調査の段階のことを意見するにあたって、このような状況となっているが、策定委託業者であるジャパン総研におかれては、最後まで責任をもって支援していただけるのか。
- 事務局：計画策定にかかる打合せや当会議への出席などの支援を受けることになっているほか、今年度末までに、第二期の計画が冊子として完成するまでを委託業務として契約しているので心配はない。
- 委員：病児保育については、どう分析しているのか。定員を増やせば安心して利用できるようになるのか、それとも、見込み量に比べてこれだけの実績しかないのならば施設を拡充する必要はないと判断しているのか、どういうふうに考えているのか。採算が合わない事業でもある。
- 事務局：見込み量は、受け入れ可能な定員について関係なく算定されていて、一方、実績は定員が限定された結果によるもので、感染症等が流行したときに定員を超えた申込があり、実際に利用ができなかった件数は含まれていないことから数字に乖離がある。病児保育事業については、利用したくないといった意見もアンケート調査結果にはあったが、感染症流行期には利用ができなかったという苦情が課に寄せられたことがこれまでもあるので、第二期計画に掲げる見込み量や拡充については、慎重に考えていきたい。
- 委員：第1期計画でこれだけの見込み量があったにもかかわらず、施設の拡充は検討しなかったのか。
- 事務局：第1期計画期間中も拡充について検討は行ったが、実現に至っていない状況にある。
- 委員：今後も拡充を目指してもらいたい。次に、放課後児童クラブについてだが、就学前児童の保護者を対象としたアンケート調査結果では同事業に対するニーズは高いが、小学生の保護者を対象とした調査結果になると就学前に比べ低くなっている。これが小1ギャップといえる。宇和島市の場合、各校区で実施するといった方針もないので、地域によれば、放課後児童クラブが無いために、子どもを預けるところがな

い、仕事を辞めなくてはならない、もしくはパートタイム労働しかできないといった現実がある。放課後児童クラブについても事業の充実を図ってもらいたいと思っているが、行政はどう考えているか。

事務局：放課後児童クラブの拡充については、検討しなくてはならないと認識している。

委員：それについて、学校側の余裕教室の活用を行い、鶴島放課後児童クラブに続く施設整備は進まないか。

事務局：教育委員会と連携しながら検討していく必要があり、協議を行った結果、前向きに進めていく方向になっている。

委員：宇和津小学校においては、放課後子ども教室を実施している。夏休みについても利用児童が多く、大変ニーズが高い状況にある。小学校敷地内で実施しているメリットは、授業終了後、そのまま敷地内で利用できることで、保護者が安心して預けられる点にある。また、近くにある保育園の放課後児童クラブの利用児童も多くいる。急に下校を要する場合にも、両事業について運営者側が柔軟に対応してもらうことができているので、連携が大切だなと感じている。

委員：いずれの事業にも登録がない場合には、保護者のお迎えまでどう対応するのか。

委員：学校が責任を持って図書室で預かった。

委員：アンケート調査結果から把握できるとおり、例えば、番城放課後児童クラブの場合も、1年生の占める割合は40%くらいとなっている。近隣の尾串保育園や石丸保育園が実施している放課後児童クラブも合わせると、1年生の2人に1人は児童クラブに所属しているような状況であるといえる。小学生の保護者のアンケート調査結果に習い事で放課後を過ごさせたいといった意見があるが、実際のところ、放課後児童クラブと併用していることも多く、放課後児童クラブから習い事に通っている児童も多くいる。よって、放課後児童クラブの利用意向が低い傾向に見受けられるが、どちらかといえば習い事を優先したいといった回答をしているだけではないかと分析している。事実上、両方利用したいといった回答を想定すると、放課後児童クラブの利用意向は高いはずである。

委員：児童の保護者代表として出席されている委員のみなさんに聞きたいのだが、児童館のような施設がほしいという要望の結果、パフィオうわじまの子育て支援センターができたのだが、この施設の評価はいかがなものか。

委員：未就園児向けの施設だといった評価を聞く。施設を利用した場合の駐車料金が発生するのが残念なようである。

事務局：子育て支援センターを利用した場合の駐車料金は最大で4時間無料である。

委員：そういったことについて周知不足ではないのか。

- 委員：先般、岩松幼稚園が、園外保育で、バスに乗ってパフィオへ行ったが、そのときは、環太平洋短期大学部附属幼稚園が主催のイベントがあったので全園児が楽しめたようである。ただ、駐車場の台数が少ないので、そういうイベントがあったときに行きづらいという話を聞いた。平日に年長児を連れていった保護者から聞いた話では、幼児室には積み木や絵本といった子どもが遊べるものがあるが、それを使用するならば申請をしないと借りられないといったシステムで、遊具や滑り台とかがあるわけでもなく、親子1組で行った場合、つまり、子どもは一人で行った場合には、すぐに子どもが飽きてしまったという。また、津島からは遠くへ行こうという気にはなれない。
- 委員：何回か利用したが楽しかった。小さい子には小さな滑り台やボールプールなどもあり比較的充実していたので、子どもが帰りたくないといった状況であった。小学生も楽しめていたし、テラスには中学生も来ていた。気になるのは衛生管理のことで、感染症等が蔓延しないような対策を考えておいてほしいと思う。
- 事務局：衛生管理面については、情報の周知や注意喚起などを通じて保護者に理解を求めていく必要があると思うので、事業者に留意してもらうよう伝える。
- 委員：私はまだ1度も足を運んだことはないが、友人が私の子どもも連れて行ってくれた。そのときには楽しく遊べたようであるが、その友人からも、子どもひとりでは楽しくないかもしれないといった感想を聞いている。絵本の読み聞かせも定期的に行っているようであるが、開催日が土曜のみなので行くことができていない。別の曜日にも行ってもらえたらいいなと思うことと、ぜひ近いうちに自分も足を運んでみたい。
- 委員：4階スペースについては、屋外にデッキのスペースがあるのだが、残念ながら雨の日には遊べない状況になっているので、可動式の屋根の設置などがあれば良いなと感じた。人工芝の部分についても、暑い日には芝が暑く利用できない状況であるのでひと工夫してもらい、より多くの児童がより多くのスペースをいつでも利用できるようにしてもらえたら、もっと利用量が増えるのではないかと思う。衛生設備面では、食事ができる箇所には手洗い場が設置されていない状況であったので、手洗い場がもう少しあればいいなと思った。良い点は、図書室で借りた本を4階へ持っていくことができ、自由にどの場所でも読めるというところや、4階は児童がいないと入室できないのかと思ったが、高齢者も立ち寄ることを許容してくれて、子どもたちの様子を見ることができ、開かれたスペースを目指されているのだなと感じることができたところである。
- 委員：私立保育所等が実施している子育て支援事業は、土日は実施していないことからすると、パフィオの良い点は、毎日実施してくれていることではないかと思う。読み聞かせのようなイベントのほか、体操教

室なども実施していると聞いたので、これからいろいろなイベント情報を周知していただき利用が増えるといいなと思う。

委員：階によって、管理委託業者が異なるため考え方も異なるかもしれないが、企画を市民が持ち込み、それをパフィオが主催するといった流れも大いに増えると良いなと期待している。

委員：パフィオのような大きな施設も大切だが、三間の保護者から聞いているのは、本当に欲しい施設は、いつでもすぐ利用や相談ができる施設だという。地域の子育て支援事業がなかなか整備されていっていない傾向にないか。旧宇和島地区は充実傾向にあるが、旧3町はそういう状況にない。子育てについては、その地域の環境を整えることも大事だと思う。施設や事業の充実については、それぞれの地域でも検討してもらいたい。これは、放課後児童クラブや放課後子ども教室についても同様である。地域にない事業についても問うアンケート調査となったことも含めて反省し、今後は地域に根ざした子育て支援についても考えてもらいたい。

事務局：貴重な意見をいただいたことに感謝している。放課後児童クラブと放課後子ども教室の件については、一体的な実施を目指して教育委員会と保健福祉部で協議を行ったところである。

パフィオうわじまについても、さまざまな課題に対してできる限り改善の努力をしていくつもりであるので御理解いただきたい。

(2) 令和2年度に事業形態を変更予定の施設について(資料4・5)

※変更事項について説明し、利用定員の設定について委員意見を求めた。

[質疑応答・意見]

委員意見 特になし

3 その他

※資料(資料6)に沿い、10月から開始予定の幼児教育・保育無償化について説明を行い、情報提供を行った。

[質疑応答・意見]

委員：預かり保育については、公立幼稚園はどうなるのか。

事務局：現在のところ、公立幼稚園については預かり保育を行っていないため、対象となる事業がない。ただし、公立幼稚園に児童を通わせている保護者で、就労等のために保育が必要だという認定を受け、認可外保育施設を利用した場合には、その認可外保育施設の利用料が無償化の対象となる。

委員：ちなみに、津島に無償化の対象となる認可外施設はあるのか？

事務局：津島地区にはない。

- 委員：将来的に、公立幼稚園で預かり保育を実施予定はあるか。
- 事務局：今回のニーズ調査の結果等を踏まえて整理したいと考えている。現在のところ、10月からの実施予定はない。
- 委員：無償化となると保育所入所希望者が増えると思うが、施設利用者の申し込みに伴う入所調整作業が非常に煩雑で時間がかかっていると思う。そこで、一部自治体では、AIを活用し、数分の作業に抑えることができていると聞くが、導入の検討はしないか。
- 事務局：導入している自治体があるのは知っている。AIにより作業効率が上がリ、確実な情報を迅速に保護者に通知できるという効果について情報収集が必要だと思うので、先進自治体に情報提供をいただきながら検討してみたい考える。
- 委員：保育所入所希望者が増えるという懸念があるなかで、保育士の確保が大変ではないかと思う。確保に向けて、多くの課題があると思うが、その点に関する対応は考えているのか。
- 事務局：今回の無償化の対象は主に3歳以上であることから、すでに就園している児童が多いと想定され、このことにより入所希望者が大幅に増えるといったことは想定しておらず、仮に入所者が増えたとしても、3歳以上であれば、保育士一人あたりが保育することができる児童の人数は、3歳未満に比べて多いので、大きな影響はないものと思っている。しかしながら、例年のことであるが、保護者が就労している割合が7割を超える状況にあり、保育を必要とする児童が多くいることに伴い、3歳未満児の保育ニーズに応えるための保育士確保が課題となっている状況であることから、その処遇改善は喫緊の課題であるには違いない。このことについては、近年、国も市も改善に取り組んでいるが、抜本的な解決にはなっていないようにも感じるので、保育士資格を保有しているひとが、保育士として働いていただけるような方策も含めて、まだまだ処遇の改善については力を入れていかなくてはならないと思っている。

4 開 会

次回会議開催予定について(事務局)

※9月下旬開催予定であることを周知し、出席依頼を行った。

閉会の挨拶(廣瀬副会長)